

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒がより主体的に活動を行い、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を身に付けられるように教育課程を編成するとともに授業充実を図る。</p> <p>②生徒の学習ニーズに応えるとともに、言語活動とグローバル教育の充実を図る。</p>	<p>①平成30年度からの教育課程の実施に向けて、年間指導計画の策定を行う。 ・学校行事や生徒会活動に生徒がより主体的に取り組む姿勢を養い、充実を図る。 ・日常の授業の充実を図るとともに授業改善の取組を計画的、組織的に進める。</p> <p>②生徒に身に付けさせたい資質・能力の伸長を目指し、グローバル教育の充実を図る。</p>	<p>①平成30年度からの教育課程の実施に向けて、55分授業に対応した年間指導計画を策定する。 ・学校行事や生徒会活動において生徒の主体性を養う目的を明確にした取組として実施する。 ・授業研究や研修会を実施し、言語活動を充実させるなど組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②グローバル社会で活躍する人材との連携を図り、生徒の意識改革を進める。</p>	<p>①55分授業に向けた年間指導計画を策定できたか。 ・生徒が主体的に取り組める行事の充実を図れたか。 ・授業研究や研修会を実施することにより、組織的な授業改善に効果があったか。</p> <p>②グローバル教育により、生徒の意識改革と身に付けさせたい資質・能力の伸長を図れたか。</p>	<p>①平成30年度からの教育課程の実施に向けて、55分授業に対応した指導計画の検討を行った。 ・生徒が主体的に学校行事や生徒会活動に取り組めるように支援した。 ・研究授業や研究協議を行い、授業改善の取組を計画的、組織的に進めた。</p> <p>②グローバル人材として生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、グローバル教育の充実を図った。</p>	<p>①55分授業の実施に向けて研修会や試行を行う。 ②グローバル人材としての資質・能力を明確にするため、各教科科目等における取組実績を検証、分析する。</p>	<p>○45分授業から55分授業に移行することで、授業時間の確保だけでなく、生徒主体の学びになるような授業充実が期待できる。具体的な実践研究を積み重ねていくとよい。 ○各教科科目における取組をグローバルコンピテンシーとしてわかりやすくまとめられるとよい。</p>	<p>①平成30年度からの教育課程の実施に向けて、55分授業に対応した指導計画の検討を進め、55分授業の試行と研究協議を行った。 ・生徒が主体的に学校行事や生徒会活動に取り組めるように支援した。 ・研究授業や研究協議の取組を計画的、組織的に進めている。</p> <p>②グローバル人材として生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、グローバル教育の充実を図った。</p>	<p>①グローバル人材としての資質・能力を明確にするため、「横浜平沼グローバルコンピテンシー」を策定し、各教科科目等における取組実績を検証、分析していく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①コミュニケーション能力を養い、他者への思いやりを大切に、主体的に行動できる人格を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりに目をむけて、適切な生徒理解に基づく生徒支援を実践するとともに、生徒が安心、安全な学校生活が送れるように校内の整備を進める。</p>	<p>①コミュニケーション能力と他者への思いやりの心を育て、生徒が主体的に行動し、他者との円滑な関係を築けるような人格育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりに目を向けて、適切な生徒理解に基づく生徒支援を実践する。 ・安心、安全な学校生活が送れるように相談体制を効果的に機能させる。 ・防犯意識を醸成するとともに</p>	<p>①他者との円滑な人間関係を築けるように意見を交換したり課題を解決したりする力を育成するために学校行事、ホームルーム活動、授業、部活動等への取り組ませ方を再考する。</p> <p>②担任と教科担当者、部活動顧問などが情報を共有して生徒理解を進め、きめ細かな支援を行う。 ・相談体制を効果的に機能させる。 ・防犯意識を醸成し、情報モラルの向上のために情報</p>	<p>①他者との円滑な人間関係を築けるように、できたか。</p> <p>②教職員間の連携を密にし、生徒理解を進め、きめ細かな支援を行えたか。 ・相談体制を効果的に機能させることができたか。 ・生徒の防犯意識の醸成や情報モラルの向上を図れたか。</p>	<p>①授業やホームルーム活動等において他者との円滑な関係を築けるような人格育成を進めている。各学年で思春期講座を実施した。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に基づき、生徒へのアンケートを実施するなど、生徒一人ひとりに目を向けて、生徒理解に基づく生徒支援を行った。 ・SC、SSW、学校支援課、地域の相談担当、医療機関等と連携し、個別の事案に丁寧に対応した。 ・防犯意識を醸成するとともに、情報モラル教育を進めた。</p>	<p>①学校の状況の変化にあわせ、次年度に向けて学校いじめ防止基本方針や対応マニュアルの見直しを進める。</p>	<p>○SNSは有効な使い方もあるので、トラブル回避の指導とともに、正しい使い方の指導もするとよい。 ○思春期講座のような取組は大切である。 ○行事への思いは全員同じではないので少数の者への配慮も大切だが、全体に影響されてよい経験となることも多い。</p>	<p>①授業やホームルーム活動等において他者との円滑な関係を築けるような人格育成を進めている。各学年で思春期講座を実施した。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に基づき、生徒へのアンケートを実施するなど、生徒一人ひとりに目を向けて、生徒理解に基づく生徒支援を行った。 ・SC、SSW、学校支援課、地域の相談担当、医療機関等と連携し、個別の事案に丁寧に対応した。</p>	<p>①学校の状況の変化にあわせ、次年度に向けて学校いじめ防止基本方針や対応マニュアルの見直しを進める。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		に、情報モラル教育を進める。	提供と注意喚起を行う。					・防犯意識を醸成するとともに、情報モラル教育を進めた。	
3 進路指導・支援	①3年間を見通して各学年のプロセスを重視した進路指導計画を確立し、組織的・体系的な進路指導を行う。それにより、生徒がより高い希望を持ち、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地の育成を支援する。	①3年間を見通して各学年のプロセスを重視した進路指導計画を推進し、組織的・体系的な進路指導を実践する。それにより、生徒がより高い希望を持ち、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地の育成を支援する。	①大学の授業への参加や、外部機関や同窓会と連携して体系的に情報提供や啓発活動を実施する。 ・生徒がより高い希望を実現できるよう、模擬試験や各種資格試験等の外部試験の活用を推進し、結果を踏まえての事後の指導や教育計画への反映を図る。 ・幅広い視野と柔軟な思考力を養うために、習得した知識や技能を活用する機会の充実を図る。	①3年間を見通して各学年のプロセスを重視した進路指導計画を確立し、体系的に情報提供や啓発活動を実施できたか。 ・模擬試験や各種資格試験等の外部試験を活用し、結果を踏まえての事後指導や教育計画への反映を行ったか。 ・習得した知識や技能を活用する機会を充実させ、幅広い視野と柔軟な思考力を養うことができたか。	①3年間を見通した進路指導計画をに基づき、組織的・体系的な進路指導を行った。 ・GTECの全校実施、即興型英語ディベート大会や大学主催の論文コンテストなどへの参加、留学生との交流会、本校卒業生の元国連事務次長の講演会等を企画・実施し、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地の育成を図った。	①生徒が習得した知識技能を活用する機会を授業や行事等の中で設定、紹介していく。	○世の中の変化に対応するために、学校が変わっていくことは必要である。課題発見の授業におけるアプローチについては、能動的な取組が大切であり、学校の取組は高く評価できる。	①3年間を見通した進路指導計画をに基づき、組織的・体系的な進路指導を行っている。 ・GTECの全校実施、即興型英語ディベート大会や大学主催の論文コンテストなどへの参加、留学生との交流会、本校卒業生の元国連事務次長の講演会等を実施し、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地を育成した。	①生徒が習得した知識技能を活用する機会を授業や行事等の中で設定してより主体的な取組を支援し、「学びに向かう力、人間性等」を涵養する。
4 地域等との協働	①PTAや地域の教育機関との連携事業を推進し、地域の教育力を活用して地域とともにある学校づくりを推進する。 ②地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を推進する。	①PTAや地域の小中学校等との交流・連携事業を推進し、地域の教育力を活用するなど地域とともにある学校づくりを進める。 ②地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を深める。	①PTAや地域の小中学校等との交流・連携事業を行い、協働による教育活動を行う。 ②生徒会や部活動を中心に地域貢献活動や交流事業を推進する。	①PTAや地域の小中学校等と連携した活動を行い、地域とともにある学校づくりを推進できたか。 ②地域貢献活動の充実を図れたか。 ・地域の特別支援学校等との交流を深められたか。	①PTAや地域の小中学校等との交流・連携事業を推進し、地域とともにある学校づくりを進めた。 ②地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を進めた。	①地域の中学校や小学校との連携を進める。 ②今後も生徒の実態に合った地域貢献活動を企画・実践していく。	○中学校と違い西区在住の生徒は少ないが、生徒が地域に興味を持つような取組を検討するとよい。 ○地域貢献活動には地域と協働で進めていることは評価できる。	①PTAや地域の小中学校等との交流・連携事業を推進し、地域とともにある学校づくりを進めた。 ②行事や部活動において地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を進めた。	①地域の中学校や小学校との連携を進める。 ②今後も生徒の実態に合った地域貢献活動を企画・実践していく。
5 学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。 ②事故・不祥事の防止に努める。	①大規模災害に備え、防災マニュアルに基づき、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。 ②事故・不祥事の防止に努める。	①防災マニュアルを継続的に見直すとともに、計画的な防災教育を行う。 ②事故・不祥事防止会議を中心に、不祥事ゼロプログラムに基づき情報共有や意識改革を進める。	①防災マニュアルの見直しを行ったか。 ・計画的に防災教育を実施できたか。 ②事故・不祥事防止会議を中心に情報共有や意識改革を進め、事故の未然防止を図れたか。	①大規模災害に備え、防災マニュアルに基づき、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備した。 ②事故・不祥事防止会議全体会を定期的に行い、事故・不祥事の防止に努めた。	①防災について、地域と話し合いの場を持つなど、連携を進めた。	○大規模災害において、発生時の生徒の活動を明確にできるか。 ○学校と地域の連携について話し合いができたのは前進である。	①大規模災害に備え、防災マニュアルに基づき、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備した。 ②事故・不祥事防止会議全体会を定期的に行い、事故・不祥事の防止に努めた。	①防災について、地域との連携を具体的な場面を想定して進める。